まんだら通信

第 252 号（通巻 286 号）

平成 29 年 07 月 西暦 2017 年 佛誕 2576 年 皇紀 2583 年

295-0103　千葉県南房総市白浜町滝口 1084
真言宗智山派　天神山　紫雲寺　髙橋　龍渉
郵便振替　00120-2-43163　紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
http://www.shiunji.org/
Mail post@shiunji.org

あそか基金のこと

スリランカの成田山幼稚園のご好意で、二週間ほど「居候」をしたことがあります。この幼稚園の園長代理をしていたアンギーさんと知り合いになりました。

私は気軽にアンギーさんなどといいますが、本当は、みんなから尊敬されているあちらのお坊さんの中でも、特別に偉いお坊さんなのです。

その時から、かれこれ三十年にはなると思います。アンギーさんにお会いしたことがきっかけで、あそか基金を作ることになったのです。奨学金などというと大層に聞こえますが、最初の奨学生はたった一人でした。

その後、この話を聞いた東京の社長さんや横浜のお寺さんなど、沢山の人たちが拠出してくれて、今では恐らく百人以上の子供たちが給付を受けていると思います。

アンギーさんが、このほど、沢山の写真をメールで送って下さったので、ごく一部を掲載いたします。

五十年前のサンフランシスコ講和会議の時、のちにスリランカの大統領になる、ジャヤワルダナさんがブッダの言葉を引用して、集った各国の代表に日本に対する、賠償の請求権の放棄を勧めてくれました。

このことが、日本の戦後復興のきっかけとなったことは間違いありません。

日本もスリランカも、外貨を稼ぐ資源が乏しい国です。

そのかわり勉強好きで他人を思いやる気持ちの強いことなどは、良く似ています。

幼稚園は義務教育ではありませんが、スリランカを歩いてみると、小さな村にもお寺にも沢山あります。

ここに通う子供たちがやがて、スリランカの経済を豊かにしてくれます。

私たちの『あそか基金』は、本当に小さな奨学基金ですが、明日のスリランカのために大きな役割を担っていると、ひそかに誇りに思っています。

メールに添えて、身に余るお言葉をいただきました。「では。先生に長生きと元気でこの世の中で立派なお坊様でいられる事お祈りいたします。」

2017.06.09　龍渉

余滴

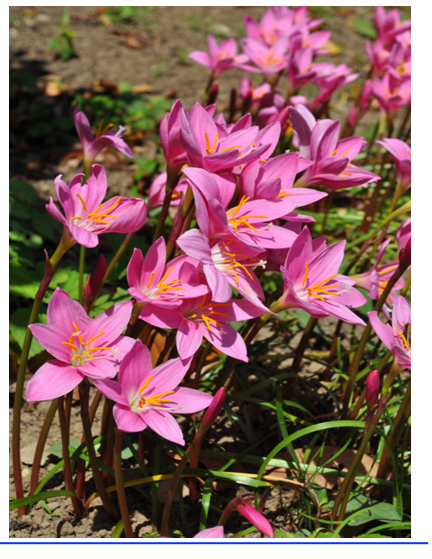
▼佐藤愛子さんや曾野綾子さんの本を読んでいると、「日を追うごとに身体が言うことを聴かなくなって…」という文章があります。

お二人とも私より遙かにご高齢なので、私から見ればお元気そのものなのですが、まして私は COPD（肺気腫）の末期ですから、ま、致し方ないかな、と思っています。

▼それにしても、梅雨明け前というのにこの暑さはどうしたことでしょうか。病気持ちの私がいうのも変ですが、暑さに慣れていないこの季節ですから、出来るだけ涼しくして、特に感覚が鈍っている我々年寄りには、水分補給が何より肝心だと思います。

▼今月の野草はサフランモドキ【ヒガンバナ科タマスダレ属】日照りが続いたあと、雨が降ると、今まで何もなかった土手などに、ピンクの鮮やかなこの花が咲いてビックリします。そういえば、この辺りでは昔から『あめふりばな』といいましたね。

2017.07.10　龍渉



Mac mini 2.6GHz IntelCore i5（MacOS X El Capitan 10.11.6 & SnowLeopard10.6.8）・ WordProcessor, egword Universal 2.0.2・printer DocuPrint C3350・Camera Nikon D5000

にっぽん人情小噺

百十三話　天国の妻

三遊亭鳳豊

最近、キンキンこと愛川欽也さんが惜しまれて亡くなられました。

僕の友人も、その翌日に、ひとりで旅立ちました。まだ六十八歳でした。仕事はリタイアしていたのですが、奥さんが働いていたので、ひとりで留守番をしていたのに、何を思ったのか、お風呂に入ったようで、そこで心臓発作が起こり、倒れたそうです。

でも、必死の思いで、自力で一一九番をかけ、救急車を呼んで意識が薄れてしまったのです。救急車は駆けつけたのですが、マンションのドアは鍵がかかったまま。やむを得ず、隣の部屋からベランダ伝いに、ガラス戸を打ち破って入ったようですが、すでに当人は亡くなっていたそうです。

息子さんから電話があって、葬式に行きましたが、奥さんと息子夫婦、それに親戚が二、三人、友人は私ひとりという葬儀でした。

確かに友だちが昔からいない男でしたが、ご最期まで寂しい思いをさせてしまったと思いました。私に電話をくれたのも、「お父さんに何かあったら、この人と、この人に連絡をしなさい」と言われたからだと言います。もうひとりの人は、弔電だけでした。

でも、ひとごとではありませんよね。

多くの人に囲まれて、「ありがとう、みんなありがとう」と言って大往生などというのは、まさに夢のまた夢でしょう。

今日は、そうした人間の最期にまつわる、いい話を紹介しましょう。知人の看劃師さんが教えてくれました。

Uさんは、七十九歳。公務員を無事定年まで勤め上げ、老後もご夫婦で海外旅行などを楽しんでいらっしゃいましたが、五年前に奥さんを亡くしてから、ガクッと体調が悪くなり、寝たり、起きたりの生活がはじまりました。

女やもめに花が咲き、男やもめにウジがわくと言いますが、男性は奥さんを先に亡くすと、ダメですねえ。Uさんも同様でした。仲のよかった奥さんを失ってから、気力を失ったようで、それまでひとりでできた食事もとれなくなってしまったそうです。

東京に住んでいる息子さんが心配して、施設を探してくれたのはよかったのですが、入居してまもなく息子の顔もわからないほどの認知症になってしまい、ほとんど一日、何もしゃべらず、無表情の毎日を送っていました。

やがて、施設から病院に移ったのですが、その時でも、まさに奥さんの死が、生きがいの喪失（そうしつ）を招いてしまった典型だと、お医者さんたちも家族に説明をし、一人息子さんも「無理な延命治療はしないように」医師に伝えてありました。

息子さん夫婦も、お孫さんたちも、死を待つだけの日々を送っていました。

それから半年、時は残酷です。やがて、待っていたかのように、Uさんに死の影が訪れます。尿の量も減り、点滴も受けつけない。そのうえ、前夜から、次第に呼吸が細くなってきたのです。朝から、Uさんに酸素が入りました。

すると、少し呼吸が楽になったようです。それでも、あと数時間の命です。

息子さん夫婦がベッドのそばで、無言のまま、お父さんを見守っています。もう、何もすることはないからです。

その時、知らせを受けたのでしょう。九州から品のいい老婦人が、部屋に入ってきました。

「しばらくでした。会いたかったわ」

老婦人は、そう言ってベッドの脇に座り込み、Uさんの顔を覗き込み、頬を両手でさすりました。

看護師さんは、驚きました。

その美しい老婦人は、Uさんのベッドの枕元に飾ってある、亡くなった奥さんそっくりのお顔で、まるで写真から抜け出たようだったからです。

すると、どうでしょう。突然、長い間、あれだけ無表情だったUさんの顔に血の気が差し、肌が生き生きと輝き、目もぱっちりと開き、いまにも何か言いたそうになったのです。

生気がみなぎってきたとは、まさに、このことです。

これには、息子さんも泣き笑いしながら、お父さんに向かって「これは負けた。やっぱりおやじにとって一番大事だったのは、おふくろだったんだな。表情が全然ちがうじゃないか。おばさん、ありがとう。おやじはいま、あれだけ会いたかったおふくろと会っているつもりなんだよねー」と言いました。

「お父さん、よかったな。お母さんに会えて。会いたかったんだよな、もう一度、大好きだったお母さんに。天国じゃなくて、ここで会えてよかったじゃないか」

そして、息子さんは、わざわざやってきてくれたおばさんに深く頭を下げました。

おばさんもハンカチで目を覆いながら、ただうなずくだけでした。

（ああそんなに奥さんを愛していたんだ……）

看護師さんも、Uさんが急に愛おしくなり、涙で前が見えなくなったと言います。

それから二時間後、息子さんご夫婦やお孫さん、ひ孫さんたちのにぎやかな声の中、Uさんは旅立たれました。

お別れのために、ご家族が病室を出て行かれる際、看護師さんは、また驚いたそうです。

息子さんが「おばさん」と呼んでいたあのUさんの奥さんそっくりのお姉さんが、入ってきた時とはちがう普通のおばあさんに見えたからです。

看護師さんは、その女性から「ありがとうございました」とていねいに挨拶され、黙礼を返した時、こう思ったそうです。

（もしかしたら、あの瞬間、亡くなった奥さんがお姉さんになって、本当に病室に入ってきたのかもしれない……）

いいんです、どうでも。間違いなく、Uさんは最期のあの瞬間、愛してやまなかった天国の妻と再会したのですから。

Mac mini 2.6GHz IntelCore i5（MacOS X El Capitan 10.11.6 & SnowLeopard10.6.8）・ WordProcessor, egword Universal 2.0.2・printer DocuPrint C3350・Camera Nikon D5000